

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第23号
2018(平成30)年11月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

近道はない — 「山本家百姓一切有近道」について —

「山本家百姓一切有近道」とは、『日本農書全集』(農山漁村文化協会発行)の第28巻(昭和57年刊)に収められている近世文書の一つです。H.A.M.A.木綿庵がある天理市乙木町と同じ町内に住していた山本喜三郎という人が、江戸時代の文政6年に著しました。そこには月別に、日々の農作業の段取りや要領が綿も含めて品目毎に丁寧に記され、奉公人に対する心遣いや生活の心得等も教え諭すように述べられています。いわばプライベートな覚え書きです。それが160年後の日本において全国出版されるなどとは、ご当人は夢にも思っておられなかったことでしょうか。ただ、この文書の持つ意義は大きく、天理で綿の栽培をする者にとってもきわめて貴重です。以下にこの書の持つ意義について、元天理大学教授の谷山正道氏が執筆されている「解題」から一部を引用させていただきます。

『山本家百姓一切有近道』(以下山本家農書と呼ぶ)は、文政六年(1823)五月に、大和国山辺郡乙木村(現天理市)の「大百姓」山本喜三郎によって著わされた。山本家は芝村藩(一万石、所在は式上郡芝村)の頭庄屋(大庄屋のこと)を勤める家柄で(ときには村庄屋を兼ねることもあった)、当時約一〇〇石の石高を有して、六町歩余という極めて大規模な手作経営を行っていた。この農書は、山本喜三郎が家の「相続之為」、子孫のために、農事暦ふうに毎日の農作業の仕方や生活の心得などをこと細かに書き残したもので、農業経営に腐心しながら、化政期という一つの時代を生きた「大百姓」の姿をよく伝えている。我々はこの農書から、稲一綿輪作地帯における当時の「大百姓」の農業技術のあり方をはじめ、多くの事柄を学びとることができる。(同書286-287頁)

江戸時代後期の化政期における大和の農民の困窮ぶりは著しく、農村の「荒廃」が進み、大百姓はそれだけに深刻な経営危機に直面していたようです。原因はさまざまな要因が絡みあつたことであつたとはいえ、大和でさかんに行われていた綿作に必要な金肥値段の高騰と労賃の高騰、他国綿作の興隆に伴う大和の綿価の下落も大きく影響していたことは間違いありません(同書289頁)。

高利貸しに頼らざるを得ない人々が増え、農業を取り巻く環境も、社会や経済システムも急激に変化してゆく混迷と激動の時代をどのように生き延びていくかは、最終的には個々の才覚に委ねられることになります。山本喜三郎氏はそれを「百姓の道」に求め、それが本書執筆の動機となりました。氏は同書の前書きに以下のように記しています。

「只百姓ハ百姓の道を一筋にして守るなり。たとへ何程下直でも此百姓を守るなり。夫故左之通り書出し置、子孫永々年に一度終までよみ尽し、能考弁そうぞくするなり。」

不器用ながら、精一杯に家族を守り、家を守り、子孫繁栄を願う一人の父親、戸主としての切実な気持ちが、現代を生きる私にも痛いほど伝わってくる文書でもあります。

「百姓一切有近道」とは、「百姓の道に近道はない」という逆説的表現である、と谷山氏は解説されています(同書295頁)。



木綿庵の畑より乙木町集落を望む

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年10月24日～平成30年11月23日)
北海道1、岩手県1、神奈川県1、長野県1、京都府1、奈良県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年10月24日～平成30年11月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件48名



〈木綿庵 収穫祭2017 — 綿摘み&草木染め体験 — 平成30年11月3日〉

午前11時より1号畑にて開催。参加者は計12名。綿摘みにつづいて草木染めを実施。今回は花梨(カリン)の葉、枇杷(ビワ)の葉、栗のイガ、苧萱(カルカヤ)、銀梅花(ギンバイカ)の実の5種類の染材を用意しました。媒染剤には椿の焼却灰(アルミ)と藁灰(アルカリ)を準備。

草木染めのおもしろさは、思ってもみない色の発色に出会ったりすることがあることで、今回は銀梅花(ギンバイカ)から出る色の鮮やかさに、一同思わず歓声をあげました。まず、アルミの先媒染できれいな紫色に染まり、それをもう一度媒染剤につけると緑色に変化！染まった布を水洗いしても色は落ちることなく、草木染めの醍醐味を存分に味わうことのできたイベントとなりました。



【ワークショップ】 — 綿摘み、糸つむぎの体験ワークショップ — を担当

平成30年11月17日(土) 12:40~13:50分 H.A.M.A. 木綿庵 1号畑にて開催

今回のワークショップは、てくてくてんり実行委員会(天理市産業振興課)が主催する「ノルディックウォーキングde色づくキレイ」(約8km)のコース途中の体験プログラムとして企画されたもの。内容は、綿の歴史と種類、綿摘み要領について簡単に説明した後、綿繰りと綿打ち(竹弓、唐弓)、糸車、スピンドルを用いての糸紡ぎの方法を実演。みなさんそれぞれに綿摘み、綿繰り、綿打ち、スピンドルを用いての糸紡ぎを体験していただきました。参加者は30名+指導員4名+市職員の皆様。ご参加くださいましたみなさん、ほんとうにありがとうございました。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿)
10月24日~11月23日 (作業実日数17日) 糸の総量88.8g (23.7匁) 総時間241分 (4時間1分)
※1分間≒0.368g 1時間≒22.1g (5.9匁)

【研修等の記録】

- 平成30年10月07日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にてもじり作り①
- 平成30年10月14日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて緋糸受け取り
- 平成30年10月18日 谷山正道先生(元天理大学教授)来庵。近世大和の綿作についてご教示頂く
- 平成30年10月21日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にてもじり作り②
- 平成30年11月03日 「H.A.M.A. 木綿庵・収穫祭—草木染め体験」実施
- 平成30年11月10日 アウトドア専門誌『BE-PAL』(小学館)12月号60-62頁に木綿庵が掲載される
- 平成30年11月17日 ノルディックウォーキングの企画行事としてワークショップ担当
- 平成30年11月18日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にてもじり作り③
- 平成30年11月23日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて整経